



学校だより

志高く

発行 熊谷市立熊谷東中学校
電話 048(521)0066
FAX 048(521)8429
令和5年11月7日
第12号

正しい判断力とたくましい実践力を
もった熊谷東中生を育む学校

久下直光、重光について

校長 清水利浩

これは、『久下・太井郷土かるた』の札です。

「久下の礎 直光・重光公親子」

久下直光と重光は、平安末期から鎌倉初期に武蔵国久下郷で開発領主として、一所懸命に活躍した武士です。久下氏は、はじめ平氏側でしたが、源氏に味方し、鎌倉幕府の御家人となりました。

「丸に一の字 ゆかりの家紋は 東竹院」

久下重光は、源頼朝の旗揚げの際に、一番に参上したということで、この家紋を頼朝からいただいたそうです。

久下直光は、熊谷直実との間で所領の境争いをしたことで有名です。その原因は、2つありそうです。



1つ目が、久下直光は、熊谷直実のお母さん方の

伯父さんです。熊谷直実が2歳の時、お父さんを亡くしたため、久下直光のもとで生活することになりました。熊谷直実が成長し、久下直光の代理として皇居の警備のため京都に行くことになりました。しかし、熊谷直実は、久下直光の代理であるということが面白くなく、無断で平清盛の子である平知盛に使えてしまいました。これに怒った久下直光は、直実の熊谷郷の一部を取り上げてしまいました。

2つ目は、久下氏も熊谷氏も、源平の合戦では大活躍します。特に熊谷直実は、数々の戦いで先陣を切り、「当代一の剛の者」と言われるくらい有名になりました。そして、熊谷直実は、源頼朝から熊谷郷の支配権を約束されます。これも所領の境争いの原因となったようです。

建久3(1192)年、久下直光と熊谷直実の所領争いの決着は、鎌倉幕府の問注所で、源頼朝の御前で行われました。問注所は、今でいう裁判所です。この場で、熊谷直実は、上手く答えることができず、その場を逃げ出し、出家してしまったと記録に書かれています。

久下氏は、その後の承久の乱(1221)でも活躍し、その恩賞として、丹波国栗作郷(兵庫県丹波市)の地頭職(新補地頭)を獲得します。その後、丹波国で活躍していきます。郷土の偉人、久下直光・重光親子についてお話ししましたが、興味のある人は、図書室の本やインターネットなどで調べてみましょう。また、久下氏や武蔵武士について、もっといい情報がありましたら、校長先生に教えてください。



がっちゅう
R5 東中の歩み



第63回東雲祭 大成功 ♪ (10月27日)

